

ABACによるジュネーブへの代表団がWTOへのビジネス界の支持を強調

APEC ビジネス諮問委員会（ABAC）の委員とスタッフから構成された代表団が今週ジュネーブの世界貿易機関（WTO）を訪問し、ルールに基づく多角的貿易体制に対するビジネス界の支持を表明した。

「WTOは数十年にわたり、APEC地域並びに世界における繁栄を下支えしてきた。WTOがもたらした世界貿易の改革は何百万もの人々を貧困から救ってきた。WTOはまた小国あるいは発展途上国に発言できる場を与えてきた。WTOは公平な競争環境を整えることにも寄与してきた」と、代表団の団長でABAC議長国チリのリチャード・フォン・アッペン議長が述べた。

ABAC代表団は、チリ、中国香港、日本、ニュージーランド、シンガポールおよび米国の6つの国・地域のビジネス界代表により構成された。代表団はAPECの国・地域からの在ジュネーブ代表と面談すると共に、10月7日にはWTOのロベルト・アゼベド事務局長を訪問した。

「ABACが本年、APEC首脳や閣僚に伝えてきた、また今ここジュネーブにおいて伝えているキーメッセージは、WTOを強く支持するという点についてアジア太平洋の経済界が一致団結しているということである。われわれはWTO加盟国に対して、WTOを堅持し、必要な改革を行うべく、建設的かつ可及的速やかに行動することを強く求める。」

フォン・アッペン氏は、IMFが世界の経済成長見通しをグローバル金融危機以後の最も低い数字まで下げ、またWTOが本年の物品貿易の成長率が1.2%まで下がると予想していることに言及した。

「われわれは、WTOが何もしなくても存在し続けるものと思っはならない。現在のグローバルな諸環境を考慮すると、いまのWTOのような機関が仮になくなるとした場合に、同様の新たな機関を創設することはまず不可能である。そのようなことになれば、先進国、発展途上国の両方に対してネガティブな影響を与えるであろう。」とフォン・アッペン氏は続けた。

ジュネーブにおける各面談においてABAC代表団は本年の前半にABACがWTOへの支持を表明するために取りまとめたステートメントに関係者の注目を促した（注：2019年4月26日付WTOに関するABAC議長のスーテートメント）。

「今回行った面談のすべてにおいて、われわれは WTO がその設立目的に合った形で持続してゆくために貿易に関するルールを改革する必要性を強調してきた。その中には、現代のビジネスモデルが実を結び、女性経営者の企業や零細・中小企業がグローバル経済のもたらす機会と利益を享受できることが含まれる。」

ABAC 代表団は、現在提案されている電子商取引に対する課税へのモラトリアムの継続に関して支持を表明した。また、男女間の差別を禁止する拘束力のあるコミットメントを、来年カザフスタンで開かれる WTO 閣僚会合に先立ち、WTO 加盟国が採択することについても支持した。

以上